

「3つの話し方」

小4学級活動(7月) 授業実践プログラム1

1 題材設定の理由

(1) 活動内容・項目

主たる内容・項目

- (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること
望ましい人間関係の育成

関連する内容・項目

- (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること
学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

円滑なコミュニケーションをもてるということは、望ましい人間関係を築く上でとても大切である。しかし、日常生活や普段の遊びの中で、自分の気持ちや言いたいことを表現できない子ども、相手の言い分を聞けない子ども、こじれた関係を修復できない子ども、葛藤や行き違いを関係の終わりと考えてしまう子どもなど、コミュニケーションや人間関係に問題を抱えている子ども達が増えている傾向にある。そのため、自分と相手の相互を大切に、円滑な関係を結ぶコミュニケーションはとても重要になってくる。

そこで、今回の「3つの話し方」では、誰にでも3つの話し方(非主張的な自己表現・攻撃的な自己表現・アサーティブな自己表現)があるということに気付かせ、互いを尊重する話し方、互いに気持ちのよい話し方について、場面設定を行い、体験的に考えさせたい。併せて、本授業をよりよい学級の人間関係を作っていくきっかけとしていきたい。

(3) 指導法・指導上の留意点

アサーション(1)の考えを取り入れたロールプレイを取り入れる。ペアになって3つの話し方(非主張的な自己表現・攻撃的な自己表現・アサーティブな自己表現)を体験し、どの話し方が気持ちよい話し方かに気付かせる。

ロールプレイをする際には、読み合うだけでなく、できるだけそれぞれの話し方の特徴がつかめるように、表情、動きなどができるように声をかける。

- 1 「自分も相手も大切にしたい自己表現」である。自分の気持ち・考え・意見・希望などを率直に正直にしかも適切な方法で自己表現すること。

2 指導目標

- (1) ロールプレイを通して、相手の気持ちを考えながらも自分の言いたいことを伝える話し方について体験的に理解する。

3 指導計画

(1) 事前・事後指導

事前指導 - 帰りの会 ; 事前アンケートをとり、友達とのやり取りでうまくいかなかった体験や普段の生活の実態をとらえておく。

《本時》 - 学級活動 ; 「3つの話し方」の授業を実施する。

事後指導 - 朝の会 ; 日常生活で、アサーションを使って友達関係をつくろうとした場面を取り上げて紹介する。

(2) 教科指導等との関連

道徳 ; 友達関係や親子関係でのテーマに生かす。

4 指導案
 (1) 指導過程

本時のねらい	ロールプレイを通して、相手の気持ちを考えながらも自分の言いたいことを伝える話し方について体験的に理解する。		
展開	活動の内容	指導上の留意点	評価・資料
導入 (5分)	1 本時のねらいを理解する。 ・自分も相手も大切にする話し方をよく知るための勉強であることを理解する。	アンケートの結果から、普段思うようにコミュニケーションできない例を確認した上で、自分と相手の両方を大切にする話し方について理解することがねらいであることを話す。	事前アンケート
展開 (30分)	2 教師が「3つの話し方」をモデリングする。 ・攻撃的な自己表現 (ジャイアンタイプ) ・非主張的な自己表現 (のび太タイプ) ・アサーティブな自己表現 (しずかちゃんタイプ) 3 モデリングを見て、感じたことや気付いたことについて話し合い、それぞれの特徴をとらえる。 4 ロールプレイを通して体験する。 ・二人組で誘う側と断る側になり、互いに3つの話し方を体験する。 5 3つの自己表現のロールプレイを通して、気持ちのよい話し方について全体で振り返る。	3つの話し方の特徴を意識付けるためにT・Tでモデリングする。 素直に感じたことを発表させるようにする。発表を苦手とする子もいるため、意図的指名もする。 2人組でロールプレイをさせる。役割を替え、誘うと断るの両方を体験させる。3つの話し方の台本を使い、表情や動きなども加味しながらロールプレイをさせる。 攻撃的な自己表現のすっきり感にだけ気付いた児童に対して、相手の気持ちを考えさせたり、自分と相手の両方にとっていいのは何かを話し合わせたりする。	それぞれのキャラクターの絵 3つの話し方の台本【評価1】 3つの話し方の台本 【評価2】
まとめ (10分)	6 本時のまとめをする。 ・活動を振り返り、気付いたことや思ったことを「ふりかえりカード」に書く。	日常生活において、自分も相手も大切にする話し方を活用していくように意欲付けを図る。	ふりかえりカード 【評価3】

(2) 評価計画 (評価の観点)

評価1 関心・意欲	3つの話し方がどんな特徴や違いを持っているのかをよく知ろうとする意欲が見られたか。
評価2 知識・理解	3つの話し方がどんな特徴や違いを持っているのかが分かったか。
評価3 思考・判断	3つの話し方を比較して、自分と相手にとって気持ちのよい話し方について考えることができたか。

5 プログラムの展開例

活動場所 教室
準備物 「それぞれのキャラクターの絵」「3つの話し方の台本」「ふりかえりカード」

導入 (5分)

1 本時のねらいを理解する。



「普段の生活の中で、うまく友達に伝えられなかったことはありませんか。そういう時は、つらいよね。そこで、今日は、そういう時にどんな風に話せばいいのか、気持ちのよい話し方はあるのかをみんなで勉強しましょう。」

展開 (30分)

2 教師のモデリングを見る。

「これから、3つの話し方をやります。それぞれどんな特徴があるのか見てください。」



教師：ジャイアンタイプはどんな感じでしたか。
児童：怒っている感じ。
児童：イラついている。

3～5 モデリングを見て特徴をまとめる。➡ ロールプレイをする。➡ 振り返る。



A：のび太タイプで言ってみると、はっきりしなくて、自分が弱くなった感じがする。
B：ジャイアンタイプで言われてみると、いやな感じでむかついた。自分のことしか考えていない。
C：しずかちゃんタイプは言ってみても、言われてみても、すっきりいい気持ちになる。また、遊ぼうって次の約束もしてくれてうれしい。

* 3つの話し方の台本を作り、それを見てロールプレイすることにしました。

まとめ (10分)

6 本時の活動を振り返り、気づいたことや考えたことを、ふりかえりカードに書き、本時のまとめをする。



D：話し方一つで相手の気持ちが変わるんだな。
E：楽しかった。友だちには言い過ぎず、やさしく言ったほうがいいということがわかりました。
F：しずかちゃんタイプでいきたい。

6 児童の反応

(1) 「ふりかえりカード」から

話し方全般や3つの話し方について考えている児童

- ・ 人からの言われ方一つで変わるんだな。
- ・ 言葉は使い次第でいやな気持ちにさせたり、いい気持ちにさせたりすることがわかりました。
- ・ 3つの話し方でそれぞれ気持ちが変わった。
- ・ 3つの話し方があったけど、しずかちゃんタイプに言われるといい気持ちが出て、しずかちゃんタイプになって言ってみると「今度、大丈夫」という気持ちになりました。
- ・ ジャイアンみたいな人に言われてすごくいやな感じがよくわかった。
- ・ ジャイアンに怒られて悲しかった。
- ・ ジャイアンのところを言うとすっきりした。

ジャイアンタイプ(攻撃的な自己主張)の明瞭さ、言い切り型の物言いに魅せられて、これを一番気持ちがよかったとする児童がいた場合

ジャイアンタイプ(攻撃的な自己主張)で言われた相手の気持ちを問う。
自分自身がジャイアンタイプ(攻撃的な自己主張)で言われた時にどんな気持ちかを問う。
日常的にジャイアンタイプ(攻撃的な自己主張)だけでふるまった時、どんなことが起こりうるか考えさせる。

しずかちゃんタイプ(アサーティブな自己表現)が一番気持ちがよいと全員が同じ感想を持った場合

なぜ気持ちがよいかを問う。自分と相手の両方の視点で話し合いをさせる。

自分の話し方についての気付きがあった児童

- ・ 私は、3つの話し方のどれだろうと思った。多分ジャイアンだと思う。
- ・ 僕は、言いたいことが言えないことがあるから、のび太タイプかも。

どのような話し方がよいのか考えている児童

- ・ 私は、しずかちゃんタイプの話し方が一番きはきして相手のことも考えていてすっきりした気持ちになりました。しずかちゃんタイプが一番いいと思う。
- ・ 自分と相手のことも「ちゃんと考えなきゃいけない」と思った。
- ・ 友達には言い過ぎずやさしく言ったほうがいいということがわかりました。

(2) 授業者・参観者の観察から

[授業者、参観者]

- ： ロールプレイは、セリフがあることで、安心して取り組めたようだ。特に、1回目座ってした時よりも、2回目立って動作や表情を加えてやった方がなりきってやっていた。自分としては、子どもの活動している姿、意見、考えなどの反応をみながら、楽しく授業ができた。
- ： 振り返りカードには、素直に感じたことを一生懸命がんばって書いていたようだ。
- ： 教師のモデリングは、お面もあったので大変分かりやすく子どもたちも喜んでいった。T・Tだからこそ話し手、受け手の立場がはっきりわかったと思う。
- ： 男の子は、特にジャイアンやしずかちゃんになりきって演技をしていました。恥ずかしさを忘れてなりきることが大事だと感じました。
- ： 3つの話し方のパターンが分かりやすく、子ども達は受け取る側になったとき感じ方が全く違うことに容易に気付けたと思います。

7 授業者・参観者の感想「 」、授業改善の視点「 ）」

： 授業の流れがスムーズで無理がなかった。モデリングを見て、3つの話し方があるということに気付くことができた。ロールプレイをすることで、言った時、言われた時の気持ちのよさやいやな気持ちを感じ取れた。楽しく活動しながらも、ジャイアンのお話し方がいいと言った児童に対しても、言われた時の感じを聞き返すことで、もう一度振り返って考えさせることもできた。

： 子どもたちが自分の言動を客観的に振り返ったり考えたりすることは、とても大切なことだと思った。こういった活動を重ねることによってよく考えて行動することのできる子を育てることができると思った。

： 普段意のままに行動している子どもたちにとって、今回のような経験はとても貴重だと思います。友達や家族など親しい人とのかかわり方を振り返り、今後はどうのように相手と接したらよいかを考えるよい機会になったと思います。

： ロールプレイは、ペアを替えたり、互いに見せ合ったりするアレンジの仕方も可能ではないか。

： ふりかえりカードへの記入は、ロールプレイの途中でその都度書くとうとうだったのか。時間がかかってしまうかもしれないが、忘れないうちにその時の気持ちを書くのはどうか。

： 3つのロールプレイのあとに役割を交替し、また3つのロールプレイをして振り返りをしたが、一つ一つの役を区切ってロールプレイさせることも可能ではなかったか。そうすれば、さらに3つの話し方の特徴などが明確になるのではないか。

<アサーション・トレーニングを授業に取り入れる際の留意点>

正しいとされるアサーションを鑄型にはめ込むように一方的に教え込まない。

(状況によってはしずかちゃんタイプが必ずしもベストとは限らない)

アサーティブな自己表現ができない子はだめ、アサーティブな自己表現ができる子はいい、といった優劣の価値付けをしない。

8 関連プログラム・参考文献等

関連プログラム

- ・「人間関係をつくる力を育てる指導援助プログラム(小・中・高等学校編)」
福島県教育センター教育相談チーム編

参考文献

- ・「エンカウンターで学級が変わる Part 3 小学校編」 國分康孝監修 図書文化
- ・「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校」
國分康孝監修 小林正幸・相川充編著 図書文化
- ・「子どものためのアサーショングループワーク
～自分も相手も大切に作る学級づくり～」 園田雅代・中釜洋子著
日精研心理臨床センター編

< 1 回目 >

さそう人 : 「ねえ、今日の放課後遊ばない。」

のび太タイプ : 「う、うん。」(小さい声で)

さそう人 : 「だめなの。」

のび太タイプ : 「うん、ちょっと・・・」

< 2 回目 >

さそう人 : 「ねえ、今日の放課後遊ばない。」

ジャイアンタイプ : 「だめに決まってる。何ちょうしのいいこといってんだよ。何できのう来なかったんだよ。おまえとは遊んでやらないからな。」

< 3 回目 >

さそう人 : 「ねえ、今日の放課後遊ばない。」

しずかちゃんタイプ : 「それより、きのうどうして来なかったの。」

さそう人 : 「ごめんね。きゅうにお使いたのまれたんだ。」

しずかちゃんタイプ : 「ふーん。電話してくれたらよかったのに。今日は、お母さんとお出かけするから、遊べないの。また、遊ぼうね。」

ふりかえりカード

4年組	番	名前	
-----	---	----	--

1 今日きょうの勉強をふりかえってみましょう。

今日きょうの3つの話し方の特ちょうは分かりましたか。
4つのうち、そうだと思ったところを でかこんでく
ださい。

よく分かった 分かった あまり分からなかった 分からなかった

3つの話し方を「言ってみて」どうでしたか。

のび太タイプ

ジャイアンタイプ

しずかちゃんタイプ

3つの話し方を「言われてみて」どうでしたか。

のび太タイプ

ジャイアンタイプ

しずかちゃんタイプ



2 今日きょうの勉強で感じたことや思った
ことを書いてください。
